

# 英語音声を見直す

## —なぜ日本人の英語は通じないか [I]—

井上 卓

### 1. はじめに

欧米人の対話スタイルや発想は日本人とは大きく異なる。これはその背景にある英語国民の文化が日本のとはまったく異なる異文化のせいであるが、音声についても、英語の音声は日本語とは大きく異なっている。音の違いも文化の違いだと言える。今回は音声面から日英語の違い等について考えて、そこから日本人の英語学習の問題点を探してみたい。今日、英語教育でコミュニケーション能力、特にリスニング・スピーキング能力が重視されているが、音声指導は以前と比べ改善され進歩しているのだろうか。私自身英検の面接委員をしていて、帰国子女等のケースは別として、中学高校生の多くが発音・読み等で訓練が非常に不足しているのを感じる。また、公開授業で、よくできた授業案にもかかわらず授業者自身の音声訓練の不足を残念に思うことがよくあったり、英語の教師対象のワークショップで、native speaker の lecture 等を聞いて、参加者が「聴き取れない」「聴き取りに」自信がない」という声もよく聞く。(英語の)発音に自信のない英語の先生も少なくない。こういったことから、日本人の英語学習で特に音声面で問題点があるのを感じてきた。このレポートの取り組みで、英語音声に関する本や資料にあたり、日本語と比べての英語の音声の特徴等を一から見直し、そこから日本人の英語学習の問題点を明らかにして今後の英語教育に役立てたい。

### 2. 英語の音声の特徴・仕組み

#### 2.1 母音

母音は息(呼気)が口の中で邪魔されずに流れて、口中を共鳴させて出来る音である。いろんな母音は舌や口の形で作られる。

日本語の母音は「ア、イ、ウ、エ、オ」の5つである。英語の場合、基本母音は「a, e, i, o, u」の

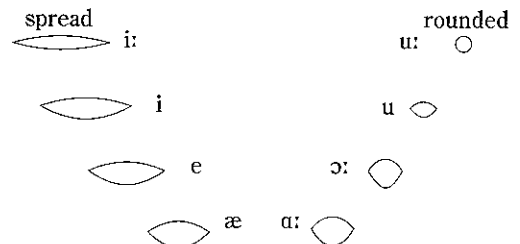
5つだが、これが長母音と短母音に別れ複雑になる。つまり短母音5つ「i, e, æ, a, ʌ, ɔ, u」のほか、長母音4つと二重母音が5つ、弱母音1つとアメリカ英語独特のr色の母音があり全部で22にもなる。このように英語の母音は日本語の母音より数が多いに多く、私たちには英語の母音の識別がとても難しくなる。例えば、日本語には「ア」の母音は1つしかないが、英語では「a, ʌ, æ, ɔ」と4種類もあるので、きちんと区別できるようにする必要がある。

母音の分類には、次の4つの基準が使われる。

1. 舌の位置が前寄りか、後ろ寄りか
2. 舌の位置が高いか、低い
3. 舌の筋肉が緊張しているか、ゆるんでいるか
4. 唇を丸くするか、しないか

日本語も英語も母音の音色は口の開け具合で変わるが、英語の発音で大切なのは舌の位置と唇の丸め加減である。日本人には唇の丸め加減と母音との関係はピンとこないが、英語の母音は唇の形によって次のように分類される。緒方<sup>1)</sup>によると、

- (1) 円唇母音(Rounded Vowel)：唇を丸くすぼめる。後舌母音(舌の最高部が後ろ寄り)に多い。
- (2) 非円唇母音(Spread Vowel)：唇を丸めない、あるいは横に広げる。前舌母音(舌の最高部が前寄り)と中央母音(舌の最高部が中間位置)に多い。



次に、日英語の母音を舌の位置から図式化してみると

i: イ i		u: ウ u
ei エ e	ə ア	ou オ
æ	ア a	o

この図から、英語の母音の方が日本語よりずっと多いことがわかる。また日本語の母音「イ、エ、ア、オ、ウ」とピッタリ重なり合うものは英語にはないように思える。このことを、英語の各母音について検証してみると

[i:] : 日本語の「イー」に似た音だが、質的に異なる音。日本語の「イー」より唇を横に引っ張りながら舌に緊張感を持たせて、口蓋とのすき間を狭めるように上げる。

[i] : [i:]より唇をゆるめ、あごを少し下げて日本語の「イ」と「エ」の中間のような響きにする。

[e] : 日本語の「エ」より舌が低く口の開きが大きい。

[æ] : [a]と[e]の中間のような音。唇を[e]よりも強く下に引いて発音。日本語の拗音(きゃ、しゃ、ちゃ等)で代用されがち。

[a:] : 日本語の「ア」よりも口を大きく開け舌は低い。

[o:] : [ou]より大きく開き、はっきりとした円唇をつくる。日本語の「オー」と「アー」の中間のような音色。

[ɔ] : 日本語の「オ」より口を大きく開け、唇を少し丸める。

[u:] : 日本語の「ウ」より口をすばめて突き出し舌は高く後ろ寄りにする。

[u] : 「ウ」より唇をすばめた音。「オ」に近い響きがある。

[ʌ] : 口をあまり開かず、口やや奥の方から「アッ」と短く発音。

[ə] : [ʌ]と同様、口を半開きにして、あいまいに「ア」と発音。口をわずかに開き、舌や唇の力を抜いて発音。「あいまい母音」と呼ばれる母音。

二重母音 [ei] [ou] [ai] [au] [ɔi] :

日本語の「エイ」「オウ」「アウ」などに見ているが、英語の二重母音は第1母音为中心で長く第2母音は添え物で、「アー」「アーウ」の感じで発音され、2つの母音の連結ではなく全体で1つの母音である。日本語の二重母音は「ア」+「イ」の足し算感覚なので、英語の二重母音とは異なった音である。

**分析** このように、英語の母音のすべてが日本語のそれとかなり異なっていることがわかった。英語の基本母音[a, e, i, o, u]は、決してそのまま「ア、エ、イ、オ、ウ」には置き換えられないのである。ところが、英語の辞書などで、便宜上発音解説の所でカタカナを使って i: = イー、i = イ、e = エ、a: = アー、ɔ: = オー、a = ア、ɔ = オ、u = ウ、ʌ = ア、ə:r = アー、ə = アと表しているのを見かけるように、英語の母音は日本語で代用されがちである。

また左上の図を見ると、英語は口の中を一杯に使って発音していることがわかる。従って口の開きは日本語よりも縦にも横にも広く、舌や唇を緊張させることが多い。これに対して、日本語では使う範囲が英語よりずっと狭く、舌や唇をあまり緊張させない、全体的にゆるんだ音である。

## 2.2 子音

母音が口の中を震わせて作るのに対し、子音は唇や舌で空気の流れを止めたり、流れにくくしたりして作る音である。英語には日本語にない子音がいくつもあり、日本人には英語の学習が非常に難しいわけだが、ここで子音について日本語と英語の音の種類を比較したものを見てみると、次のようである。

	日本語の子音	英語の子音
破裂音	p t k b d g	p t k b d g
破擦音	ts tʃ dz dʒ	tr tʃ dr dʒ
摩擦音	(Φ) s ʃ ç h	f θ s ʃ v ð z ʒ h
鼻音	m n (ŋ) N	m n ŋ
流音	r	l r
半母音	y w	y w

これを見ると、子音も英語の方が日本語より多いことがわかる。英語の子音には、日本語にない摩擦音 [f] [v] [θ] [ð] があり、生徒たちは英語を習い始めるとき、これらは日本語にない音だから特によく

練習するようと言われる。fやvは上歯で下唇をかめ、thは舌を突き出してかめ、と言われる。ところがこれらの音を正確に出せる人は、生徒でも先生でも多くないのが現状である。上の図を見ると、摩擦音以外に、p, b, t, dなど日英語には共通の音素が結構ある。しかし発声の仕方が違うのである。

2.3 子音の調音

言葉を話すのに役立つ、つまりいろんな音を可能にする身体の部分を調音器官(articulatory organ)という。「調音」とは「音声を出すために音声器官が必要な一定の運動をすること/特定の音を発すること」である。子音を明瞭に区別して発音する(articulate)するには、どの器官を使うかが重要になってくるので、特に英語を教える者にとって、音器官の位置や名前はしっかり把握しておくことが必要である。調音器官の重要なものを図で見ると次のようになる。



- ① くちびる(lips)
- ② 歯(teeth)
- ③ 歯ぐき(alveolar ridge)
- ④ 硬口蓋(hard palate)
- ⑤ 軟口蓋(soft palate; velum)
- ⑥ 舌(tongue)
- ⑦ 声帯(vocal cords)

(松坂<sup>2)</sup>より)

子音の調音方法には、破裂音、摩擦音、破擦音、鼻音、側音、移行音の6つがある。

1. 破裂音…閉じられた息の通り道を急に開く。英語では、次の3箇所所で6個の破裂音が作られる。
  - ①両唇 — [p] [b]
  - ②歯ぐき(と舌) — [t] [d]
  - ③軟口蓋(と舌) — [k] [g]
2. 摩擦音…狭められた息の通り道から、息を押し出す。英語では、次の5箇所所で摩擦音が作られる。
  - ①唇と歯 — [f] [v]
  - ②歯(と舌) — [θ] [ð]
  - ③歯ぐき — [s] [z]
  - ④歯ぐきと硬口蓋 — [ʃ] [ʒ]
  - ⑤声門 — [h]
3. 破擦音…破裂音と同じように始まるが、摩擦音と同じように終わる音。英語では、次の3箇所所で破

擦音が作られる。

- ①歯ぐき(と舌) — [ts] [dz]
  - ②歯ぐきと硬口蓋(と舌) — [tʃ] [dʒ]
  - ③歯ぐき後部(と舌) — [tr] [dr]
4. 鼻音…口の中を調音器官によってふさぎ、息を鼻から出して発音する子音。  
[m] [n] [ŋ] の3個がある。
  5. 側音…舌の両側から息が口の外に出ていくときに作られる音。英語の [l] がこれに当たる。
  6. 移行音…調音器官が、ある位置から別の位置に移行するときに発音される。小さく狭められた息の通り道が急に広くなる、という点が特徴。英語には、[w] [r] [j] の3個がある。

日本語が母音中心なのに対して、英語は子音中心のことばだと言われる。子音が正しく発音でき、聞き取れると、英語はグッとわかりやすくなる。しかし日本語とは異なる英語の子音は、日本人にとっては難しく日本語で代用される場合が多いように思われる。次に、英語の各子音、特に破裂音と摩擦音を中心に、発音の仕組み、特徴等を見てみよう。

- [f] [v] …上歯を下唇に当て息を出す摩擦音。日本語の「ハ行」「バ行」で代用されがち。
- [θ] [ð] …舌先を上下の歯で軽くはさみ、隙間から息を出す摩擦音。日本語の「サ行」「ザ行」で代用されがち。
- [p] …日本語のパ行子音より呼気圧が強くなり、それに伴う破裂の度合いが格段に大きい。強音の[p]は、発音時に「パッ」という息の音つまり気音(aspiration)を伴う。例えば、pinは[p<sup>h</sup>in]となる(気音は[h]で表記される)。
- [b] …[p]の発音の要領と大体同じ。日本語のパ行子音よりも破裂の度合いが大きい。
- [t] [d] …舌先を上歯茎に当てて呼気をため、勢いよく息を出し舌を離す。[t]は、日本語のタ行の[t]より強い語で、語頭の[t]では気音が生じる。例えば、tenは[t<sup>h</sup>en]となり、英語話者が発音すると、まるでテヘンのように聞こえる。
- [k] [g] …後舌を軟口蓋につけて呼気の流れを止め、呼気圧を高めて勢いよく息を出す音。[k]は日本語のカ行子音より破裂の度合いが大きい。語頭の[k]は気音を伴う。例えば、coolは[k<sup>h</sup>u:l]となる。

[f] [v] …上歯を下唇に軽く当てて息を出す摩擦音。日本語のフ行、バ行で代用されがち。

[s] [z] …舌先を上歯茎に近づけ、呼気がそのすき間を通るときの摩擦音。[s] は日本語のサ行子音より鋭い音。日本語サ行子音で代用されがち。

[ʃ] …日本語の「シ」に近いが、はっきりした円唇をとり、摩擦の度合いも「シ」に比べて大きい。

[ʒ] … [ʃ] の有声音。日本人には難しい音で、[dʒ] で代用しがち。

[h] …日本語の「ハ、ヘ、ホ」の子音と同じだが、英語はのどの奥からの息の出が多く、日本人には[h] の練習は難しい。

このほか、鼻音、側音、移行音についても見てみると

[m] …唇を閉じ、息を鼻に抜く。日本語のマ行の「ム」とは違うが、代用されがち。

[n] …日本語のナ行子音に近いが、[n] は舌を歯茎につけて発音。日本語の「ン」で代用されがち。

[ŋ] …軟口蓋を舌の奥の方でなめて、息を鼻から出して発音。日本語の「ング」とよく混同される。

[l] …舌先を上歯茎につけたままで発音。日本語ラ行子音と違い、長くのばせる音。

[w] …すぼめた唇を急に広げて発音する。日本語ワ行子音とかなり違うが、代用されがち。

[r] …唇をいくらか丸め舌先を巻き上げて発音。最初にころもち「ウ」を入れる感じで。

**分析** 英語の子音は強い呼気(息)に基づいて破裂音や摩擦音を出していることがわかる。英語の息の量の多さを示すと思われるものに、語頭の[p] [t] [k] が伴う [p<sup>h</sup>] [t<sup>h</sup>] [k<sup>h</sup>] という「気音」があるが、アメリカ人などは、この気音の有無によってその人が言語形成期をアメリカで過ごしていないことを直感的に察知するというのは興味深い。一方、日本人の発音する子音は、弱すぎて相手に通じにくいといわれるが、これは呼吸の量と関係がありそうである。英語の子音は全般に鋭く強い音なのである。またほとんどすべての子音が日本語と異なっているのに、日本語と混同したり、あるいは日本語で代用されがちなものもわかる。

(次号につづく)

#### 参考文献

- 1) 緒方 勲『英語音声指導ハンドブック』東京書籍, p.25.
- 2) 松坂ヒロシ(1998)『英語音声学入門』研究社.

(和歌山県立御坊商工高等学校教諭)